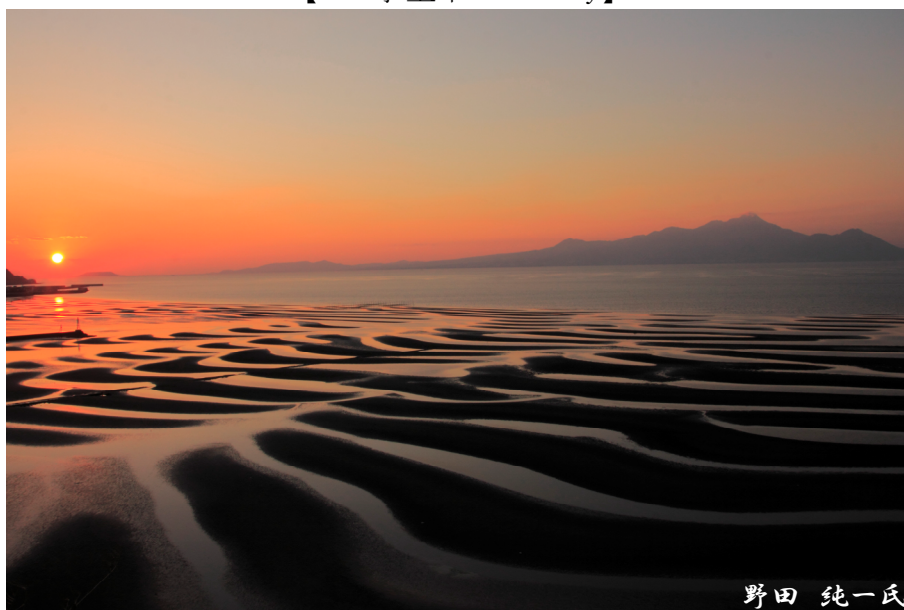


## 【13 宇土市 Uto City】



御輿来(おこしき)海岸から

宇土市では、市の北西側に広がる有明海の干潟(御輿来海岸や長浜海岸、住吉海岸)や宇土マリーナ、緑川河口のほか、宇土半島中央部の山々など、市内各地から有明海越しに“[南東面～東面の雲仙岳](#)”が眺望できます。JR 三角線の車窓からは、刻々と角度が変わり山の形が変化していく様子が楽しめます。市内の小学校の校歌にも雲仙岳が登場し、地域で古くから親しまれてきたことが分かります。市内の高台からは[阿蘇山](#)も眺望でき、[阿蘇山と雲仙岳](#)の間の歴史的な[大三角形](#)(※阿蘇地域のページ参照)を視覚的にイメージすることが可能です。

御輿来海岸の名称は、古代にこの地を訪れた景行天皇(第12代)が当地の風景(↑)に目を奪われ、しばらく御輿をとめて休まれた、という伝説に由来します。三日月状の砂泥模様の干潟越しに夕日と雲仙岳が見られる風景は、古代人のみならず現代人の心も惹きつけており、遠く関東から写真撮影ツアーが組まれるなど、県内屈指の写真撮影スポットです。また、住吉海岸にある長部田(ながべた)海床路は、海苔養殖・採貝を営む漁師さんのために建設された電柱・電灯付きの道路で、真っすぐに雲仙岳(眉山)に向かって伸びています。満潮になれば海中に電柱の列が並び、さらに夜になれば電柱に電灯がとまり、幻想的な風景が現れます。

JR 三角線と並行するように市内を東西に走る国道57号線は、もともと阿蘇くじゅう国立公園と雲仙天草国立公園をつなぐルートとして、別府観光の父・油屋熊八氏が提案した九州横断道路(別府市～くじゅう～阿蘇カルデラ～熊本市～雲仙～長崎市)の一部となっており、[阿蘇山](#)と雲仙岳のつながりを感じることができる道路です。

市の北端を流れる緑川の水は、有明海に流れ込みますが、全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての[阿蘇山](#)の大噴火による噴出物を緑川や白川などが日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、宇土市内を旅してみませんか？

●宇土市の観光情報はこちら↓

宇土市商工観光課 <http://www.city.uto.kumamoto.jp/utomonogatari/>



長部田海床路から



長浜の高台のみかん畑から